資料１

# 資源管理WG委員名簿

2017年10月27日現在

【委員】

| | |
|---|---|
| 崎田 裕子 | ジャーナリスト・環境カウンセラー<br>NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット 理事長 |
| 杉山 涼子 | 株式会社杉山・栗原環境事務所　取締役 |
| 細田 衛士 | 慶應義塾大学経済学部 教授 |
| 森口 祐一 | 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 教授 |
| 臼井 万寿雄 | 東京都オリンピック・パラリンピック準備局<br>大会施設部 施設調整担当課長 |
| 古澤 康夫 | 東京都環境局資源循環推進部計画課 資源循環推進専門課長 |

（敬称略、五十音順）

【オブザーバー】

| | |
|---|---|
| 勝野 美江 | 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局 参事官 |
| 鈴木 弘幸 | 環境省環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室　室長補佐 |

（敬称略）

資料２

# 第8回資源管理WGのまとめ

大会準備運営第一局　持続可能性部

2017年10月27日

# 第8回資源管理WGでいただいたご意見(1/3)

| 分野 | ご指摘事項概要 |
|---|---|
| 資源管理におけるゴール | SDGsのゴールは相互に関連性があるので、その関連性を理解し、目標12を中心としてSDGs全体とのつながりを考えるべきである。 |
| | ゴールの言葉としては、「Zero Wasting」という動詞的な表現がふさわしいと考える。この表現は、ゴミの減量、ムダの削減といった廃棄物に関する考え方を表すとともに、生物多様性等の他の分野とのつながりも評価できる、より幅広さを感じさせるキーワードだと考える。 |
| | ゴールの設定においては、「伝わりやすく共感を得やすいものであること」を意識すべきである。 |
| 目標・指標の枠組み | コントロールできないものは目標や指標にはなじみにくいため、何らかの対策でコントロールできるものを指標として設定すべきである。 |
| | 大会で使用した物品量や環境中への排出量等を把握してまとめ、持続可能性報告書に記載して「見える化」ができれば、国民や次回以降の大会にとって参考となるものができると考える。 |
| | 資源管理のインプット側に関する指標は、具体的に取り組む分野を想定しながら検討していくべきである。 |
| | 資源管理に直結する分野の炭素排出量も1つの指標にすべきである。例えば、「環境中への排出の最少化」を、温室効果ガスの排出量を指標として測定することが考えられる。 |
| | 建設廃棄物の再使用・再生利用と再生材の利用は、分量が多いので徹底して取り組むべきである。 |
| | 再生資源は持続可能な利用を行うことが、生物多様性および低炭素の視点からも重要だと考える。 |


TOKYO 2020

# 第8回資源管理WGでいただいたご意見(2/3)

| 分野 | ご指摘事項概要 |
|---|---|
| 食品ロス対策 | 食品ロスは世界的な課題になっていることもあり、東京大会で取り組むべき大事な課題である。 |
| | 食品ロス対策の検討に際しては、札幌アジア大会での状況や台北ユニバーシアードでの事例を参考にしたり、ラグビーW杯や国体などの場での事前の検証をしてはどうか。 |
| | まずは組織委が主体的に管理できる選手村ダイニングなどで対策に取り組むべきである。 |
| | 食品ロス対策については確立された指標やベンチマークがない中で、今後も他のイベントなどで使用できるような指標を作ることがたいへん有効だと考える。 |
| 容器包装削減 | 建設・準備段階での容器包装削減は、しっかりとした戦略が必要である。 |
| | レジ袋削減について、観客への呼びかけをどのように行うかが重要である。 |
| | リユースカップやリユース食器を導入した際の効果が把握できたり、日本の技術を活用した再生材を利用した容器包装が使われていることをアピールできる指標があるとよい。 |
| 調達物品の再使用・再生利用 | 大会後の再使用・再生利用方策とセットにした調達や、オークションによる再使用市場の開設など、戦略的な取り組みと併せて目標を設定できればよい。 |
| | 組織委でも既に「日本の木材活用リレー」のような取り組みを始めているので、そのような点もカバーした目標を作るべきである。 |

# 第8回資源管理WGでいただいたご意見(3/3)

| 分野 | ご指摘事項概要 |
|---|---|
| 食品廃棄物再資源化 | 東京周辺の再資源化施設の余力を踏まえて目標設定を行うべきである。 |
| 建設工事における再生材の利用 | 建設リサイクル分野では、従来は廃棄物の埋立回避が中心的な取り組みであった。再生材の利用を掲げたことは、より質の高いリサイクルを目指すという意味で有効な目標である。 |
| | 「東京都建設リサイクル推進計画」を参考にしながら目標指標を策定してはどうか。 |
| | 建設工事はすでにある程度進んでいるので、その現状を踏まえて目標を設定すべきである。 |
| 再生金属メダル | 指標として、再生金属の使用率を採用すべきか、それ以外の数字の方が望ましいのかは、検討を要する事項である。 |
| 埋立処分量の削減 | 資源管理分野全体のバランスを考えると、日本の埋立処分量は既にかなり少なくなっているため、埋立処分量の削減対策よりは、日本として取り組みがやや遅れている分野に力を入れた方が良いのではないか。 |
| | 環境中への排出という側面を考え、焼却処分によって生じるCO2等の量をおおまかに押さえておくことも重要であると考える。 |

資料３

# 第9回資源管理WG　資料

## 大会準備運営第一局　持続可能性部

2017年10月27日

# 今後の資源管理WGスケジュールとご議論いただきたいこと

| 日程 | 議事予定内容 |
|---|---|
| 第9回資源管理WG<br>10月27日（金）<br>9:30～11:30（今回） | ・東京2020大会の資源管理の全体像と方向性<br>・資源活用の取り組みの優先順位の考え方<br>・目標群として設定する項目の確認 |
| 第10回資源管理WG<br>11月13日（月）<br>9:30～11:30（予定） | ・個別項目の方針、指標の考え方、具体的な取組の考え方に関する検討①<br>(これまでのWGで議論できなかった項目を中心に、全体的に議論) |
| 第11回資源管理WG<br>11月29日（水）<br>時間調整中（予定） | ・個別項目の方針、指標の考え方、具体的な取組の考え方に関する検討②<br>（第10回WGで検討できなかった項目を中心に） |

# 前回までの議論整理と今回の論点

**【前回までの議論】**

・資源分野のゴールのあり方、目指すべき方向性の検討

・個別項目の目標・指標の方向性の議論

＜今後検討が必要な事項＞

個別項目毎の方針・目標指標の考え方・具体的な取組の考え方など

**【今回の論点】**

1. 前回までの議論の再確認（資源管理の目指すべき方向性について）

2. 方向性を踏まえた、具体的な推進事項の優先順位についての検討

3. 目標群の整理についての検討

# １．東京2020大会の資源管理の全体像と方向性

## 目指すべき方向性：Zero Wasting

（例）「資源の無駄のない、資源採取や廃棄で地球を荒廃させない社会を目指し、Zero Wastingの資源利用の実例を示す」

＊「数値目標」としてのゼロではなく、目指すべき方向。大会を契機に、 Zero Wastingの経済社会にむけて大きく前進することを目指す。

＊廃棄物処理法の「廃棄物」をゼロにするという意味ではなく、資源を浪費しない、荒廃を引き起こさない等の意味も含む。

○「持続可能な消費・生産」を可能にする「循環経済」のモデル、モーメントに。

**目指すべき方向性**

# 2. 資源活用の対策の優先順位と取り組みの整理

**【課題】**

・資源管理の方向性と、具体的取り組みをどう連係させるか

・資源管理のフローの中で、どのような順番で対策を検討すべきか設定

・それぞれの対策には、どのような取り組みが含まれるのか検討する

# ２-1. 東京大会における資源活用の優先順位

**【ポイント】**

・インプット・アウトプット両方の側面での資源管理

・資源の調達から環境中への排出に至る全側面における、
持続可能性への影響の最少化

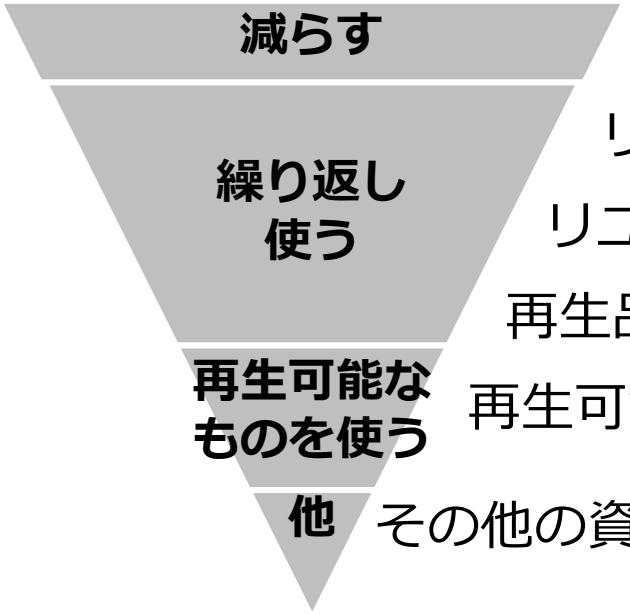
＊インプット段階とアウトプット段階の対策の優先順位を定め、
インプット段階から廃棄物削減を目指すことを明示

＊優先順位の適用に当たっては、
・環境影響
・コスト
・実行可能性　　を考慮する必要

**・資源管理の方向性を踏まえ、資源活用の対策の優先順位のあり方を議論いただきたい**
（優先順位の各項目の課題については次の議事で検討）

# 2 -2. 資源活用の取り組みの優先順位の考え方

## インプット側




最小限の調達, 資源ロスの削減, 省資源なものの調達

リース・レンタル、買戻し特約

リユース品

再生品（再生資源利用）

再生可能資源（持続可能性が確認されたもの）

その他の資源

×

リユースが容易

リサイクルが容易

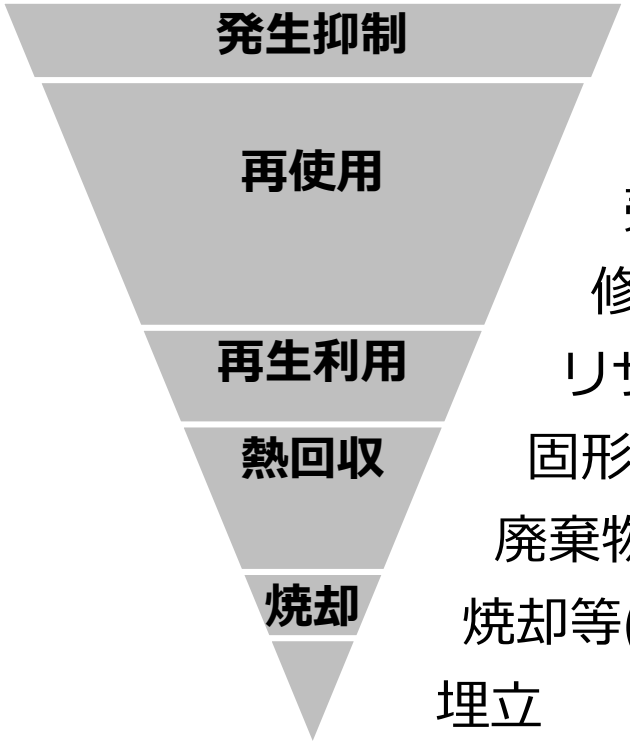
その他

【検討ポイント】

・優先順位の考え方として、妥当か

# 2 -2. 資源活用の取り組みの優先順位の考え方

## アウトプット側




〔省資源、資源ロスの削減〕

〔リース・レンタル、買戻し特約〕

売却、贈与

修理・加工後にリユース

リサイクル

固形燃料化等

廃棄物発電

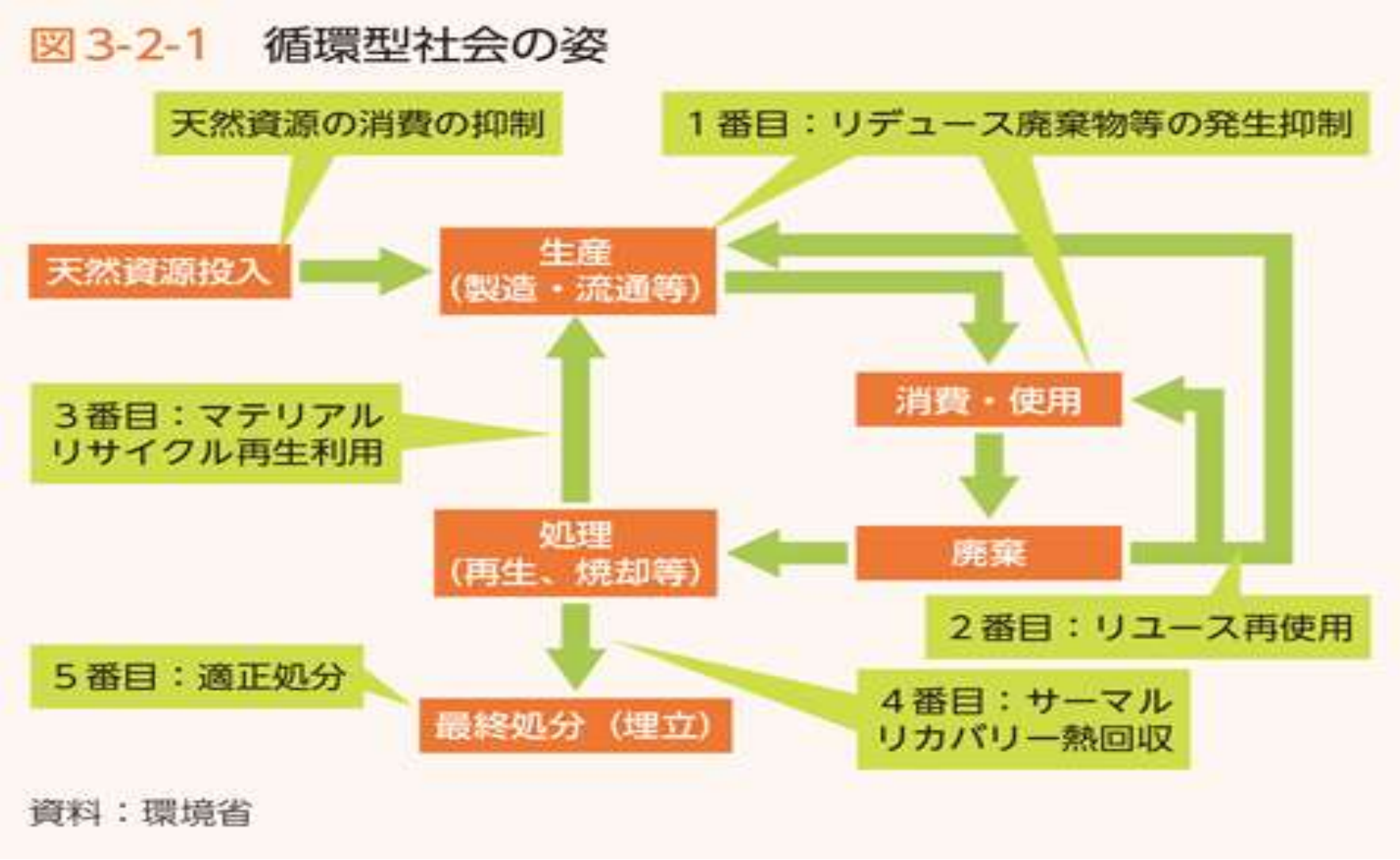
焼却等(減容化)

埋立

【検討ポイント】

・優先順位の考え方として、妥当か。

# （参考）循環型社会形成推進基本法の考え方

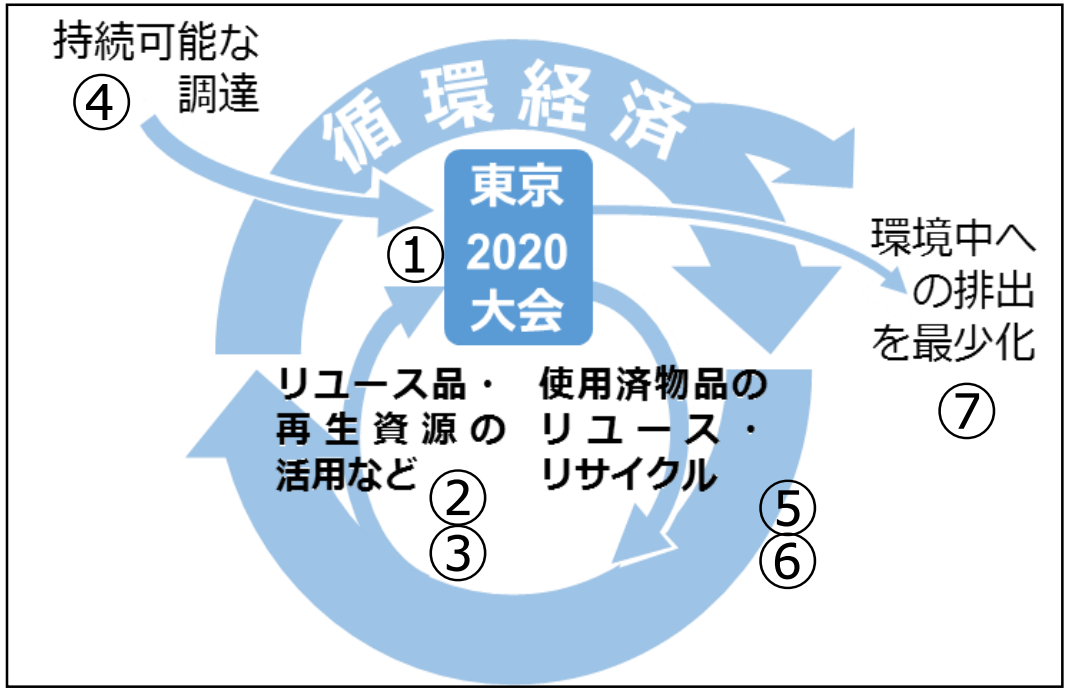



出典：　『平成26年版　環境・循環型社会・生物多様性白書』

# ３．目標群として設定する項目の確認

・これまでの議論で検討してきた資源管理の方向性をふまえ、大会での資源利用を適切に管理するための、目標群の設定が必要。

・大会における資源利用は、以下の７つの視点がある。




| | 目標の目的・視点 | |
|---|---|---|
| | インプット側 | アウトプット側 |
| リデュース | ①リデュース、資源の無駄の最少化 | |
| リユース | ②後利用に配慮した調達<br>リユース品の調達 | ⑤使用済み物品等のリユース |
| リサイクル | ③リサイクルしやすい製品の調達<br>リサイクル品の調達 | ⑥使用済み物品等のリサイクル |
| 地球環境保全の側面 | ④持続可能な資源管理 | ⑦環境中への排出の最少化 |

**上記の視点で目標群を設定してよいか、改めて確認したい**

・資源利用の7つの側面をカバーする目標群として、以下の10個の目標群を検討

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th colspan="2">目標の目的・視点</th><th colspan="2">目標候補</th></tr>
<tr><th>インプット側</th><th>アウトプット側</th><th>インプット側（例）</th><th>アウトプット側（例）</th></tr>
<tr><td>リデュース</td><td colspan="2">リデュース、資源の無駄の最少化</td><td colspan="2">1.食品ロス削減（食品廃棄物の発生抑制）<br>2. 容器包装等削減</td></tr>
<tr><td>リユース</td><td>後利用に配慮した調達<br>リユース品の調達</td><td>使用済み物品等の<br>リユース</td><td colspan="2">3.調達物品の再使用（リース等含む）・再生利用</td></tr>
<tr><td>リサイクル</td><td>リサイクルしやすい<br>製品の調達<br>リサイクル品の調達</td><td>使用済み物品等の<br>リサイクル</td><td>4. 再生材の利用<br>5. 入賞メダルへの再生金属利用</td><td>7. 運営時廃棄物の再使用・再生利用<br>8. 食品廃棄物の再生利用<br>9. 建設廃棄物の再使用・再生利用</td></tr>
<tr><td>地球環境保全の側面</td><td>持続可能な資源管理</td><td>環境中への排出の最少化</td><td>6.再生可能資源の持続可能な利用 (木材等)</td><td>10.環境中への排出の削減(埋立処分量、廃棄物由来CO2の削減)</td></tr>
</table>

**・これらの目標群で漏れている要素はないか**
**・バランスの良い目標群になっているか　等をご議論いただきたい**
（指標についての具体的討議は、次回以降とする）

# 第10.11回での議論予定内容
## ～個別項目の方針、指標の考え方、具体的な取組の方向性に関する検討～

### ●目標設定の考え方：ＳＤＧsの考え方に倣って、Goal-Target-Indicatorの3段階で整理

| | |
|---|---|
| Goal（戦略） | 目指すべき方向性　　（例）「Zero Wasting の資源利用の実例を示す。」 |
| Target（目標） | 主要な（マテリアリティの高い）事項に関する具体的目標<br>・定量的なものに留まらない。<br>・10個の目標群について、「組織委員会が排出責任を有するもの」について、建設・運営等の各段階、対象品目等のバランス等も考慮して設定。 |
| Indicator（指標） | 進捗状況や成果を測定・評価するための数値等<br>・可能な限り定量化をめざす。<br>・明確な定義、モニタリング可能であることが必要 |

### ●目標群「○．調達物品の再使用・再生利用」におけるTarget等の考え方（イメージ）

| Target（目標） | Indicator（指標） |
|---|---|
| 調達物品を●●する。<br>（・・・において）・・・に取り組む<br>（・・・に対して）・・・を呼びかける　等 | （・・・における）調達物品の再使用・再生利用率　等 |

# （参考）大会で使用・排出されるもの(第7回WG資料抜粋)

**組織委員会が排出責任を有する物品・廃棄物**

| | |
|---|---|
| 仮設施設 | ○ウォームアップ会場等の施設<br>○テント、プレハブ、観客席<br>○工事により発生する廃棄物 |
| 調達備品消耗品 | ○選手村機器備品・競技用備品<br>○放送用空調機器・ｹｰﾌﾞﾙ<br>○什器・ＰＣ等事務用品、<br>○誘導棒等その他消耗物品　等 |
| 会場装飾 | ○オリンピック・パラリンピック競技大会の表示幕<br>○その他会場を装飾する物　等 |
| 運営廃棄物（食品） | ○調理場からでる食品廃棄物<br>○選手観客等の残飯 |
| 運営廃棄物（その他） | ○ペットボトル・缶・瓶<br>○コップ・割箸等使捨カトラリー<br>○コピー用紙・紙屑　等 |

**組織委員会以外の事業者・団体等が排出責任を有する廃棄物**

| | |
|---|---|
| 建設事業者（組織委）による廃棄物 | ○建設廃棄物<br>○建設による伐採樹木等の処理 |
| 建設事業（都・国）による廃棄物 | ○建設廃棄物<br>○建設による伐採樹木等の処理 |
| 売店事業者・放送事業者・団体等の廃棄物 | ○食品廃棄物<br>○使い捨てカトラリー<br>○放送ケーブル等廃棄物<br>○その他持ち込み物 |

資料 4

# 持続可能性に配慮した運営計画第２版の策定の方向性

第１版での積み残しへの対応や、ISO20121（持続可能性を踏まえたイベントのマネジメントシステムに関する国際規格）への準拠、また、持続可能性に関する世界的な議論などを踏まえ、以下の視点で第２版策定の検討を進める。

○意義の明確化

東京大会において持続可能性に配慮した大会運営を目指すべき意義をより明確にするため、以下の事項について記述を追加。

・公害を克服した環境先進都市東京の今日までの歩み
・世界的にも転換期を迎えるであろう 21 世紀社会における我が国が果たすべき役割、発信すべきこと

○ＳＤＧｓへの貢献の明確化

運営計画の基本理念にＳＤＧｓを据え、主要施策への反映（ＳＤＧｓを踏まえた目標策定等）を行う。

○計画の適用範囲・実施体制の明確化（ISO 規格の反映）

ＳＤＧｓへの貢献（持続可能性への配慮）の最大化に向け、施策の進行管理を適切に行えるよう、主体ごとに施策の実施・評価体制を明確に位置付ける。

その際、ＩＳＯ20121 規格に則したマネジメントが適切に行えるよう計画の対象範囲等の明確化を図る。

○施策目標の具体化（数値化）

目標の策定に当たっては、第１版を踏まえつつ、施策の評価検証が適切に行えるよう可能な限り数値化する。

○実施施策の進捗状況・課題の明確化

施設整備部門系と運営部門系との業務進捗度合いの差異などを踏まえ、施策毎に業務の進捗状況を整理。既に一部達成されているものはその成果を評価しつつ、今後の施策実施に向けた課題等の抽出・検討を行う。

○モニタリング体制の構築

実施施策の進捗状況の確認・課題の明確化・改善策の検討実施を行うなど ISO20121 におけるＰＤＣＡを適切に実施するためのモニタリング体制の構築を行う。